



ロータリーは機会の扉を開く

2020~2021 RI.2760地区

瀬戸ロータリークラブ会報

2020年12月23日発行 第2775号

本日のプログラム

2020年12月23日(水)

通算第2952回例会

本年度第18回

WEB例会

- ・開会点鐘
- ・会長挨拶
- ・出席状況
- ・幹事報告

前回例会記録

2020年12月16日第2951回例会

WEB例会

- ・出席率 WEB視聴 55名中28名
出席率 50.90%
- ・卓話 公立陶生病院 感染症内科
主任部長 武藤 義和様
「ここまで分かった！新型コロナウイルス感染症Ⅱ」

イ・チェリムさんからのメッセージ



皆さん、こんにちは。イ・チェリムと申します。よろしくお祈りします。

MERRY CHRISTMAS

**クリスマスには幸せなお時間を
楽しんでください**

HAPPY NEW YEAR

**2021年は幸せなことがたくさんあるよう
私も楽しみにしています**

皆さん、お元気ですか。私は12月の例会に参加できなかったのが本当に会いたいです。今、韓国も日本もコロナパンデミックが段々増えているので、お体を大事にしてください。

私も今、学校で頑張っております。これが私の作った陶磁器です(写真上↑)。こんな感じで花瓶を研究しました。後ろは折り紙の感じを表現してみました。

今は新しいデザインの作品を作っておりますので、皆さん是非楽しみにしてください。来年の2月の末から卒業展覧会があるので、是非私の陶磁器を紹介したいと思います。よろしくお祈りします。

私はあと1年日本にいる予定です。瀬戸ロータリークラブの例会に参加したいと思っているので、よろしくお祈りします。お体お大事にしてください。

ありがとうございました。



第2951回例会挨拶 会長 松村晋也君

皆さん、こんにちは。本日は瀬戸ロータリー第2951回の例会であります。本日の卓話は公立陶生病院感染症内科の武藤義和先生に「ここまで分かった！新型コロナウイルス感染症Ⅱ」ということでお話をいただく予定です。さて本日と来週はWEBの例会をさせていただきます。先週の例会は急遽、休会とさせていただきました。今、コロナの第3波が非常に猛威を振るっておりまして、一日の感染者数、重症者数を日々更新している状態であります。会員の皆様からこういう時に例会はいかがなものかというお話をいただきまして、ドクターの方にも相談いたしまして急遽、例会について理事会で審議して決定いたしました。今週、来週はWEB例会になりますので、何卒ご理解の上ご協力をよろしくお願い致します。

さて12月と言いますと、私がロータリーに入って20年になりますが、今まで19回普通に年末家族会が行われていました。ところが今年はこのコロナの影響で三密を避けるディスタンスのことを、或いは食事のことを考えるとどうしても無理がありますので、年末家族会は残念ながら中止させて頂きました。その代わりと言ってはなんですが、この親睦活動に皆様方がクリスマスプレゼントならぬ何かプレゼントが出来ないかということで色々考えていただきまして、皆さんのご家庭にそのうちプレゼントが届きますので、是非ご期待いただきたいと思います。さて、この年末家族会の日本における始まりというのははっきりしております。東京ロータリーは1920年に出来ましてその3年後の1923年9月1日に関東大震災が起きたという話は今までもしました。その時に世

界のロータリーから8万9千ドルの義援金が届いたのです。当時としては非常に莫大なお金であり、東京ロータリーはそのお金を東京と横浜の小学校の再建に充てると同時に罹災者救護にも充てました。それから関東大震災の影響で多くの孤児が出ましたので、東京の孤児院の中にロータリーホームと名付けて新築一棟を寄付しました。そのロータリーホームの献呈式が翌年1924年の10月24日に行われ、この時に東京ロータリーの会員の6割の方が奥さん、家族同伴で式に出席したそうです。これが日本ロータリーの家族会の始まりと言われております。ロータリーは元々アメリカから発生しましてその後すぐにヨーロッパに行くのですが、欧米の方々はお出かける時、奥さん、家族同伴が文化として定着しております。しかし日本の場合は江戸から明治、大正にかけて奥さんが同伴することが無かったので、この家族会からロータリーの場合はその後の地区大会、地区協議会のような所にも奥さん同伴が普通の姿になってきており、現在は家族会がどのロータリーでも行われているはずですが、今日は家族会とロータリーの関係についてお話をさせていただきます。

例会予定

《《《12月30日(水)》》》

休会(年末年始)

《《《1月6日(水)》》》

WEB例会

《《《1月13日(水)》》》

WEB例会

公立陶生病院 感染症内科 主任部長 武藤 義和様 「ここまで分かった！」

新型コロナウイルス感染症Ⅱ」



皆さん、こんにちは。私は瀬戸市の公立陶生病院感染症内科の武藤義和と申します。今日は皆さんにここまでわかった新型コロナウイルス感染症の話をもっと簡単にさせていただきますのでよろしくお願い致します。

まずコロナウイルスで、今更ですがかれこれ 1 年前に中国から来たと言われていて、人に感染するウイルスは 7 番目と言われており、ウイルスは接触飛沫感染を起こすと言われ、基本的には風邪のような症状の方が多のですが、急激に重症化する方もいるので非常に危険なウイルスで今現在、世界中で猛威を振るっているのが現状であります。日本に今、どのくらいの患者さんがいるかですが、今第 3 波と言われる患者さんが増加しており、10 月の終わりからどんどん増え、現在最終的に 16 万人以上の方が感染し、亡くなられた方 2,300 人と 1.4% 前後であります。とは言うものの死亡率は第 1 波、第 2 波に比べるとどんどん下がっていて、治療の成績も良くなってきています。病気としての怖さというのまだいふ和らできたかなという状況です。愛知県といいますと、すでに患者さんは 1 万 2 千人ほどで、日本で 4 番目に多い県と言われており、死亡率は最初 2 月頃の屋形船とかスポーツジムなどのクラスターが色々言われていた時期は高齢者の方が多かったのが死亡率が高かったのですが、今は 1% で全国平均より減って治療成績の良い県であると言われております。確かに重症の方も多のですが、医療崩壊のレベルには至っていないのが現状です。

実際この病気、どんな症状が出るのか、皆さんご存知と思いますが、基本的には風邪、肺炎、インフルエンザに似た症状です。熱、咳が出る、のどが痛い、味覚、嗅覚障害が出ると言われています。ただ半分くらいの場合、何の症状も無く、知らない間に感染している人が多いということで、これが人に感染することになり、結局、感染拡大を止められない理由になっていきます。特にこの病気は年齢によって重症度が違います。どの病気もそうですが、10 代から 30 代が重症化することはまずありませんが、50 代を過ぎてくると高熱や重症化から人工呼吸器という生死の境をさまようような方も多く、70 歳 80 歳となってくると顕著になってきます。やはり 40 代 50 代と比べると体力が無い方が多いので、結局治療しても亡くなる方ができます。一番怖いのは感染力です。インフルエンザは高齢の方

が感染しても命を取られる程ではないことが多く、治ります。この病気も同じように感染しやすいにもかかわらず明らかに死亡率が高く、インフルエンザの百倍くらい亡くなる可能性があると考えたら、インフルエンザ並みの感染力を持つ病気がインフルエンザの百倍も命にかかわるという認識になるわけです。やはりそんな病気が町中に蔓延したら困るわけです。感染対策をしっかりやっている人にうつしても困るわけで、皆がしっかり協力して感染対策をしなくては行けないのです。いわゆる GO TO を止める、政府がどうではなく、自分がどうするかを是非考えて頂きたいと思うのがこの病気の大事なところなんです。感染すると言ってもいつでも何処でも誰でもというわけではなく、基本的には感染期間があり感染してから発症するまで 4、5 日、一週間くらいと言われております。インフルエンザが 1 日 2 日と言われてるので発症が遅いのです。何が厄介かと言いますと、発症する前日くらいから人にうつします。明日熱が出る人が今日から人にうつす力がある、しかもそのうつす力は発症する直前が一番強いという非常に厄介なウイルスです。即ち発症する頃には周りにうつしている、しかもその感染する力は一週間ほど続くと言われておりますので、徹底した 24 時間感染対策を考える必要があります。クラスターが発生した時、その発症した人が悪いみたいな世の中の風潮というのは問題でして、その人が感染して発症したのであれば、周りの人が知らないうちに広げてその人が発症しただけかもしれない、結果的には誰が発症してもおかしくないし、誰が感染してもおかしくない、社会がこの病気を許容しなければいけない時期にきているのです。検査に関しても当初は検査を渋っているとか保健所が渋っているという話がありましたが、今は必要とあればほとんどどこでもできます。皆さんが熱を出したり咳が出る時はまずは検査が出来る施設を保健所やかかりつけ医に聞いて探し受診していただくこととなります。だからと言って誰でもかかれでもやっつけていいという検査ではなく、心配だからやると言っても基本的には見付からないです。症状がある人に対して徹底的にやるのは正しいことだと思うのですが、自分はコロナかもと軽い気持ちで検査するのは全く意味が無いのです。感染しているがしてしまいが症状があろうが無かろうが検査しようがしまいが、きちんと自分は人に感染させないぞと常に思い続ける生活をする方が明らかに効果があるというわけです。不安だから検査するのではなく不安だから自分が感染しても人にうつさない生活をしようとするのが正しいのです。

次に後遺症ですが、WHO も多くの方が後遺症で悩んでいると言っていますが、自分は 100 人以上の患者さんを診ておりますが、そういう風に言われている方を見たことがないです。なぜここまで後遺症が多いと言われているのか理解できないのが事実です。他の愛知県の先生に聞いても確かに後遺症は存在するけれど、テレビのようなだるくて息苦しくて生活が辛いという人はほとんどいません。恐らく過剰な報道であろうと現場の人は感じています。正しく理解する意味では実際、この病気でもなくても 2 週間も肺炎で隔離されていて体力が落ちてしまった人が退院した瞬間に元気になるはずがありません。それを後遺症と言っている可能性が高いと思います。ですので、この病気は確かに後遺症で苦しんでいる人もいますが、9 割以上の方は元気になって生活しており、皆さんも感染してもそうなりうると思いますので、ことさら不安をあおるような報道に引っ張られないようにしてほしいと思います。しかし入院して重症化する人は高血圧、肥満、糖尿病など基礎疾患をお持ちの方が多く、そのような方や高齢の方は感染

しない生活を徹底していただく必要があるわけです。



ワクチンも最近色々話題になっていまして恐らく日本で来年頭から打てるようになると思いますが、実際、ワクチンを打ったからかからない証明は出来ないわけです。大事なのはワクチンを打って発症する人が減る、重症化する人が減る、ということです。打って効果があるかないかは年単位必要になってきます。ですので、2021年から日本でワクチンが始まるとマスコミはこぞって副作用について言うでしょうが、それはどのワクチンでも1%はないけれど起こりうる話で、だからと言ってワクチンを否定する根拠にはなりません。やはりこれが9割効くとニュースでやるくらいですから、これが本当ならばやはり期待できるものであり、焦らず皆さん自分の番をゆっくり待っていただく必要があります。ワクチンの副作用をどう考えるかという結局、天秤なのです。100万人接種して99万9,900人の命が助かるというワクチンで100人が後遺症で苦しむことになった時に、一人でも出たらこんなワクチン打たせないと考えるのか、それだけ多くの人を助けることが出来るワクチンならばやるべきと考えるか、そういうことです。今の日本はどちらかというとなんか安全性ばかり注目して、ほとんどの人を助けることが出来るのに助けられなくなってしまう

う、こういったことがワクチン業界では非常に多くあり、しっかりこのワクチンの効果を適切に判断する必要があり感情に流されないようにしてほしいと思います。

結局、どのような生活をすればよいかの感染対策ですが、自分は仮に感染、発症しても、感染対策をしてきたから絶対に人にうつすはずがないと自信を持って言えるような生活をさせていただく必要があります。それが接触感染と飛沫感染を対策することになります。

対策については資料をご覧ください。

まとめますと、基本的には感染対策とは手を洗うこと、三密を回避してソーシャルディスタンスをとること、マスクをして換気をしっかりとすること、これが非常に大事です。特に70歳80歳を越えた方は感染リスクが極めて高いと共に死亡リスクも非常に伸びてしまいます。頑張って絶対に感染しないようにしてください。それはどういうことかという居酒屋、忘年会、新年会みたいな人が集まってわいわい騒ぐような活動、井戸端会議のような立ち話するのもそうですが、そういった環境を避けていただくと共にカラオケなど大きな声を出す所も避けていただきたいと思います。加えてGO TOもそうですが、今現在日本は医療者の為に経済を潰さねば、しかし経済が困窮したらだめじゃないかと対立するような空気を作ろうとしています。医療者は誰一人として経済を潰してでも病気をさせるなどは思っていません。両方とも守ることが大事だと思っています。

今現在、医療崩壊だと報道は過熱していますが、実際には日本中がそうではなく、ある一部の病院がそうになっている、しかもその一部の病院も他の病院と連携すれば対応できるものを医療崩壊と大きく言っているのです。これは現場の人間が感じていることなので、報道ではわからないと思いますが、現実としては今現在、経済を潰すのではなくしっかり両立できるような世界を作っていくことを我々は考えているので、皆さんも感染対策をしっかりして、日本の感染をコントロールできるように一緒に頑張っていければと思います。今後も感染に気をつけて生活するようにしていきましょう。

これで私の話を終わりたいと思います。ありがとうございました。

年末家族会のプレゼントがナント一匹なりの荒巻シャケ(塩曳鮭)！「どうすんの！これ～」の声も(笑)

